

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392700031		
法人名	社会福祉法人 愛燦会		
事業所名	グループホーム長寿の家(さくらユニット)		
所在地	愛知県津島市江西町4-148		
自己評価作成日	平成31年1月10日	評価結果市町村受理日	平成31年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2392700031-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	平成31年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者に不安なく楽しく過ごしていただき、職員全員が馴染みの関係となって共同生活を送れるように、「家族のようなあたたかい家」を目標に取り組んでいる。不穏状態や徘徊が目立つ方もおられるが、個別のニーズを汲み取って拘束にならない方法で声掛け、誘導など個別対応し、落ち着いて過ごせるような支援をしている。毎月食事レクを実施するほか、週に1度以上はボランティア訪問やイベントを実施している。食事の支度(調理を除く)や後片付け、物干し等の簡単な家事も、入居者と職員が毎日協力して行う事で、日常生活自立度の維持に努めている。毎日体操の時間を設け、職員が工夫したレクリエーションと共に楽しみながら体力維持を図っている。毎年9月(開設月)にはご家族を招待して、一年間のスライドショーや職員の出し物を披露するイベントを開催しているが、普段食事と一緒に食事ができないご家族様にはよい機会だと喜んで頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、幹線道路から一步入った閑静な住宅地の中にあり、近くの図書館までは日々の散歩コースになっている。藤の花の名所となっている天王寺川公園も近くにある。開設から8年の時を経て、少しずつ地域に馴染み近隣の方とつながりが持てるようになってきた。管理者は地域のグループホームとしての役割やグループホームの内容、認知症についてなどの周知に努めたいと運営推進会議等を通じて努力している。「あなたが楽しいと私が嬉しい」の法人理念を基に「家族のようなあたたかい家」の実現に向けて職員全員で協力しながら日々支援に努めている。不穏や徘徊、帰宅願望の強い方にも個々のニーズをくみ取り、様々な工夫を重ねながら個別できめ細かな忍耐強い支援に取り組んでいる。四季折々の催しや祭り、花見、外食を計画したり、ボランティアによる演奏会、銭太鼓や絵手紙、ちぎり絵教室、日々の体操やゲーム、歌など生活に彩りを添えながら楽しい家、あたたかい家の生活に向けた支援に職員一丸となって努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通じて、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で話し合っ考えた「家族のようなあたたかい家」という理念を共有し、思いやりを持って業務に当たっている。玄関と、ユニット内にも掲げている。	法人と事業所の理念は誰にでもわかるように玄関や各ユニット、事務室に掲げている。管理者はケアをしている職員の動きや入居者の反応などから、理念を共有し実践に繋がっているかを確認したり、職員会議や申し送りの際に振り返る機会を作り、意識しながら業務にあたるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も、地区の文化祭行事に入居者の作品を出品させてもらったほか、近所の飲食店や商店を外出先として利用したり、小学校の音楽会鑑賞への参加、保育園児との交流行事、地域の防災訓練やごみゼロ運動への参加、市民ボランティアの受け入れを行った。	町内会に加入し、回覧板や運営推進会議から地域の情報を得て地域の文化行事に参加したり、防災訓練やごみゼロ運動に入居者と共に参加している。法人の夏祭りには地域の方々が多く参加している。近所の飲食店で外食を楽しんだり、買い物や日々の散歩で挨拶をするなど日常的に交流を重ねている。小学校の音楽鑑賞や保育園児との交流も継続し、市民ボランティアの受け入れもやっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内の夏祭りの説明会において、施設長が、認知症の方の対応について説明をしている。地域貢献の一環として、災害時に近所の方が避難してくる事を想定して、非常食などの備蓄品の量に余裕を持たせている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	規定に沿って定期的開催している。特に行事と内部研修の説明に力を入れている。地域連携の意味合いで、回覧板を回して頂くようになり、地域の行事を知ることや参加できるようになった。	運営推進会議は2ヶ月に1回、入居者や家族、町内会長、民生委員、市職員、包括支援センター職員等が参加して開催している。会議では事業所の現状や課題、内部研修の報告を行い、入居者の様子はプロジェクターで報告し、日常生活を知ってもらうようにしている。参加者からの意見や要望はその場で話し合ったり、職員会議で検討をしてサービス向上に活かしている。議事録は家族に配布し次回開催の予定も案内している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に運営推進会議の時に、制度上の事、届け出の事等を相談している他、入居者や待機者の情報交換も行っている。会議以外でも、疑問に思う事などがあれば連絡し、確認してもらっている。	運営推進会議の時に制度上の指導やアドバイスを受けている。代行申請や更新手続きなどで関係窓口を訪れ情報交換をしたり、疑問に思うことなどを聞くなど協力関係を築いている。市主催の研修会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議でも研修・事例検討を行い、理解を深め、拘束をしないよう努めている。ユニット出入口と玄関の施錠は最低限にするよう取り決めていく。	毎月の職員会議を身体拘束適正化のための対策を検討する場としている。内部研修でもマニュアルに基づいた研修を行い、設問形式で周知度を確認している。生活動作が心配な入居者にはドアに鈴をつけたり、布団に鈴をつけるなどして動きが分かる工夫をしている。帰宅願望が強い入居者にもスタッフ全員で細かな観察や声掛けで対応し束縛感のない環境造りに努め、開放的で自由な暮らしができるよう支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の研修などもあり、意識している。職員間でも気が付いたら、注意しあい接している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	十分に理解できてはいないが、職員会議の研修の場などで学んでいる。現状、制度の活用はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が一元的に行っている。締結・解約は直接説明しており、改訂等は文書で説明の上同意書をいただいている。職員が問い合わせを受けた場合は管理者に繋ぐようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は随時受け付けており、管理者が内容を集約し、職員への指示を行い、運営に反映させるようにしている。家族から急な外泊の申し出や、受診の依頼にも柔軟に対応している。	入居者には日頃の暮らしの中で意向や要望を聞いたり、行動から確認し把握するようにしている。家族からは面会時や行事の時、運営推進会議等で要望や意見を聞き記録に残し、会議で話し合い適切な対応と共に運営に反映させている。必要に応じて電話やメールでも連絡を取り対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は原則フロアで意見内容をまとめ、フロアリーダーを通じて報告を上げる。管理者は常時意見を受け付けており、内容を集約して施設長に報告、またはリーダーとケアマネとの運営会議にて話し合い、運営に役立っている。	管理者は日常の業務の中や各フロア会議等で意見や要望を出しやすい環境作りに努めている。職員の意見や要望はフロアリーダーやケアマネージャー、管理者で運営会議で話し合い、施設長に報告と共に運営に反映させている。年2回の人事考課面接でも十分な意思疎通が図れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告や、各職員の面談に基づいて把握し評価している。勤務時間帯や希望休については、極力各職員の希望を取り入れて調整を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、職員会議で1～2題の内部研修を実施して技術と知識の向上に努めています。前年度から認知症ケアの専門性を高めるべく、毎月研修を実施している。毎回研修受講シートの提出を義務付け、今後の目標を考えるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	必要に応じて他施設の行事や研修に参加できる体制を取っている。同業者の見学に対してもオープンに対応している。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中で出来る限り、コミュニケーションをとるように心掛け傾聴し、より良い関係作りに努めています。また、他の職員からも情報交換し、家族からも情報を得るようにしている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からのニーズを事前に職員に知らせ、入居時や面会でみえた時などにお話を伺い、必要な内容は職員間で共有している。また、接遇面にも気を付けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報を共有し、職員間でニーズを検討し、ご家族にも意向を伺い、サービスに活かせるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話をしながら、その日の身体的・精神的状態をみて、出来る事(ご飯の盛り付け、洗濯干し、洗濯たたみ等)は一緒に行ってもらっている。出来ない部分は支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会やプラン作成時には、家族のニーズもお聞きしている。必要に応じて家族に協力をお願いする事もある。また、日頃の様子も伝え、今後のケア方法について一緒に考えたりもしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた時には、ゆっくり話が出来よう環境作りに努めている。時には、会話が途切れたりしないようにや思い出して頂けるようにといった意味で、声をかけさせて頂いたりしている。フロア間でも他入居者の方の話が出たら、会いに行けるようにしている。	友人など馴染みの来訪は少ないが、来訪された時は話しやすい雰囲気と場を提供するようにしている。それとなく会話の中に入り、場を取り持つこともある。同法人のベーカリーカフェに行ったり、近所の餃子屋も馴染みとなっている。近くのコーヒー店も馴染みにしたいと検討中である。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から、職員が会話やレクリエーションの際にご利用者の中に入ったり、配慮して良い関係が続くように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所として積極的に関わっていく事はない。本人・家族及び現在サービスを受けている事業所等の求めに応じて対応する。再入所や系列事業所の利用希望には特に配慮して支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、会話、言動、表情などを汲み取り、本人様の思いに添えるように努めている。また、3ヶ月に1回のモニタリングにおいても希望、意向を聞き、話し合っている。	日々の暮らしの中の動作や会話、表情などから些細な変化にも注目し、声掛けをしながら希望や思いをくみ取るように努めている。おやつ等の職員も一緒にくつろげる時は思いを聞けることが多くあり、努めて把握するように心がけている。困難な場合は家族から情報を得たり、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査の内容や資料を職員間で共有し、本人や家族からも直接お話をうかがうなどして、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察と情報共有によって努めている。職員間で話し合っ、変化に応じた対応方法を考え、現状や変更内容を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りやカンファレンス、モニタリング、フロア会議等を利用して話し合っている。ご家族にも計画作成担当者が直接相談して計画づくりをしている。	日頃の申し送りやカンファレンス、フロア会議等で情報交換やケアについて話し合い、3ヶ月毎のモニタリングを経て、本人の要望や医療等関係者の意見を参考にしながら介護計画を作成している。家族には計画作成担当者が直接面談し状況説明をするとともに希望や要望を取り入れるようにしている。状況変化があれば随時計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には、日々の様子、状態、変化、ケアプラン等の記載をしている。職員間で情報共有し、話し合いながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態・状況に応じたニーズ・サービスを導入するように努め、可能な限り柔軟な個別対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの場所として、天王川公園や津島神社等のほか、市立図書館、地域のスーパーに買い物に出かけたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は同意のもとで嘱託医がかかりつけ医になり、定期的な訪問診療を行っている。希望に応じて以前からのかかりつけ医の診療を継続する事も可能である旨、入所前に説明している。	入居時に本人や家族の意向により医療機関を決めている。嘱託医による月2回の内科往診の他、泌尿器科、皮膚科、リハビリ科等の往診が可能であり、基本的に同意のもとで嘱託医が主治医となっている。眼科や整形外科等の専門医や以前からのかかりつけ医受診は家族の協力を得ている。受診情報は申し送りや周知し家族への報告も行っている。同建物内にある訪問看護ステーションと24時間連携が取れる体制もあり、適正な医療提携につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問時に変化や状況を伝え、助言をもらい、医療機関へ繋いでいる。また、急変時やケガ等があった際や夜間等も対応して頂いている。訪問看護師へ伝える事をまとめる用紙を作成して、漏れのないように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	サマリーの提供や、必要に応じての情報交換を行っている。入所希望者の情報交換の兼ね合いもあり、市民病院の医療連携室とは連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の重要事項説明において、事業所の現在の体制と方針を説明している。	重度化や終末期に向けた方針については、入居時に現在の事業所における体制と方針を十分に説明して同意を得ている。状態に変化があった場合は早い段階から家族や主治医、関係者等と話し合い、意志の再確認を行い併設事業所につなげる等の支援を行っている。看取りの経験はないがその時に備えて、終末期の在り方を職員間で話し合い手順書を準備した。ロールプレー等実際に想定しながら研修を行い支援が出来るよう備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員会議において対応について研修を行っている。また、今年度はAEDを設置したため、施設内で救急隊員による救急救命講習を実施し、全職員が対応できるよう備えた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、それぞれ昼と夜の想定で防災訓練を実施し、避難マニュアルを作成し、周知している。また、災害時は避難所で認知症の方々の対応に困るような場面で相談して欲しいと申し出ている。	年2回、昼と夜の想定で火災の避難訓練を行っている。運営推進会議で防災の拠点としてグループホームが地域に対する役割をアピールする場の提供を依頼している。「災害時の対応」の研修直後に台風による7時間の停電が発生したが、研修が活かされ速やかな行動ができた。	運営推進会議を通して、引き続き地域との連携やグループホームの役割等地域の方々に周知するとともに地域との協力体制を築かれることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その時の状況や、その方の性格も考慮して、話しかけ方などに配慮している。人生の先輩として敬意を払う気持ちで接し、丁寧な声かけも意識している。	その人その人やその時の状況により、人格や誇り、プライバシーを損ねないような対応に努めている。誰が聞いても不快な思いをさせないような言葉かけに留意している。個々のケアで「どうしたら上手くいったか」を共有し合い、支援につなげている。プライバシーと個人情報の関係についても研修を行い職員間で周知を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、ご自分で考えたり、決定してもらえるように、声かけにも気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体で日課のペースはあるが、出来る限り一人一人の希望や、その時々々の体調、気分に応じて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来る方は自由に楽しんでいただき、そうでない方も着替えを一緒に選んだり、身につける物を一緒に買いに行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、片付けは、職員とできる入居者が協力して毎日行っている。調理レクやおやつ作りなども定期的に行っている。	法人の管理栄養士が立てた献立を施設内の厨房で調理したものが届けられ、入居者と共に盛り付けしている。入居者は能力に合わせて配膳や片付けなども行っている。音楽が流れる中、職員も同じテーブルを囲み、見守りと共に食事を一緒に楽しんでいる。行事食や調理レクリエーション、おやつ作りでは食材を買いに行く事もある。希望で寿司や餃子、和食、おやつバイキング等取り入れ楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好や体調に合わせて種類や量、食形態やトロミつけなどの調整を行っている。水分摂取不足にならないように、摂取内容や時間、声掛けの仕方にも気を付けており、季節にあわせて摂取量を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人に合わせた援助(声掛けのみ、道具を渡して誘導、一部介助、全介助)をしている。義歯を外すなど嫌がられる事もあるが、時間を空けて何度も声かけし対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、その方に合わせた時間や動きを見て、声掛け誘導を行うようにしている。おむつ使用者はいない。	個々の排泄パターンを把握し、表情や動作などから察知しその人に合わせた声掛けを行っている。介助が必要な方も出来るだけトイレでの排泄支援に努めている。オムツを使用している方はいない。便秘予防では、乳製品を取り入れたり、水分や食品、運動など取り入れ出来るだけ自然排便を促している。改善が見られない時のみ、医師と相談し個々に合った緩下剤を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に排便状況を把握し、飲料や運動を勧めたり、摂取物を工夫し、予防に取り組んでいる。施設でも乳製品を全入居者様に提供するようにし、自己排便を促すようにしている。それでも改善しない時には、医師に相談し個々に合わせた薬を服用する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく希望に沿うよう対応しているが、基本の曜日や時間帯は決まっている。気持ちよく入浴できるように、声掛け誘導にも個別に配慮をしている。	週2回以上、午後入浴としているが、皮膚トラブルがある人や希望入浴にも対応している。湯は入居者毎に入れ替え、好みの入浴剤や湯温に対応したり、冬季はヒートショックにも配慮している。季節のゆず湯やしょうぶ湯を楽しむこともある。入浴拒否の方には時間を変えたり誘い方を工夫している。同性介助にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活パターンに合わせて休んでいたが、日中休みた方には休んで頂くが、昼夜逆転しないようにも、注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容の変更があった時には、フロアの職員が分かるように申し送りをする。また変更時には、特に様子の変化に気を付けて観察するようにしている。何かあれば、すぐに医師へ連絡するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の趣味や特技、好きそうな事を生かしたレクや作品づくり(絵手紙、ちぎり絵、編み物など)、歌、脳トレ(間違い探しや計算問題、大人の塗り絵など)などを提供するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近所への買い物には対応できるように努めている。また、外食やドライブ等、ボランティアの方にも協力してもらい、対応をしている。時には、家族の方にも協力してもらい、気分転換に喫茶など外に連れ出して頂く事もある。	天候の良い時には毎日散歩に出かけ、近所の店に買い物にも出かけている。外食や近所にある図書館、神社に出かけたり、ドライブ等の時はボランティアの協力を得ている。初詣や花見など四季折々の外出も楽しんでいる。家族の協力を得て、正月の外泊や結婚式、旅行等に行かれる方や、近所の喫茶店や外食に行かれる方もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所管理だが、買い物や週一回あるパン販売の時などで、可能な方には自分で財布を持って支払ってもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望に応じて対応している。携帯電話も持ち込み可で、現在1名使用されている。また、個別で届いた手紙や葉書には、職員の取り次ぎでお礼の電話を入れている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面などを利用して季節感のある作品や習字では季節感のある言葉を書いて頂き飾っている。席は、机の配置も含め、ご利用者同士の相性を配慮して決めている。	南に面した食堂兼居間は明るく開放感がある。ホール全体を見渡すことが出来、入居者の様子を良くわかる。壁面には入居者と共に作成した季節感あふれる作品や写真、習字が飾られ、日々の様子が垣間見られる。清潔や温度、湿度、臭い等に留意している。ゆったりと寛いだ雰囲気の中で入居者はテレビを観たり、入居者同士や職員を交えて談話を楽しんでいる。ソファでのおんびり過ごしている方もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席以外に自由に使えるソファや相性を考慮した席など配慮しており、独りが好きな方も、仲の良い方同士も、自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や家族との写真などを持って来ていただいている方もあります。物や衣料を自分で整理できない方もあり、一緒に居室の環境作りに努めている。出来る方は、居室掃除も一緒にやっている。	居室には大きな収納ボックスがあり、個々に合った持ち物の整理がされている。本人や家族と相談をしながら一緒に整理する方もありますが職員と一緒に整理したり、掃除も一緒に行っている。使い慣れた小物や写真、作品を飾り、自分らしい居心地の良い空間作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に、その方の状態に合わせた迷わない為の目印を付ける等の対応をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392700031		
法人名	社会福祉法人 愛燦会		
事業所名	グループホーム長寿の家(ふじユニット)		
所在地	愛知県津島市江西町4-148		
自己評価作成日	平成31年1月15日	評価結果市町村受理日	平成31年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_U22_kani=true&JigyosyoCd=2392700031-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階
訪問調査日	平成31年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者に不安なく楽しく過ごしていただき、職員全員が馴染みの関係となって共同生活を送れるように、「家族のようなあたたかい家」を目標に取り組んでいる。不穏状態や徘徊が目立つ方もおられるが、個別のニーズを汲み取って拘束にならない方法で声掛け、誘導など個別対応し、落ち着いて過ごせるような支援をしている。毎月食事レクを実施するほか、週に1度以上はボランティア訪問やイベントを実施している。食事の支度(調理を除く)や後片付け、物干し等の簡単な家事も、入居者と職員が毎日協力して行う事で、日常生活自立度の維持に努めている。毎日体操の時間を設け、職員が工夫したレクリエーションと共に楽しみながら体力維持を図っている。毎年9月(開設月)にはご家族を招待して、一年間のスライドショーや職員の出し物を披露するイベントを開催しているが、普段食事一緒に食事ができないご家族様にはよい機会だと喜んで頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、幹線道路から一步入った閑静な住宅地の中にあり、近くの図書館までは日々の散歩コースになっている。藤の花の名所となっている天王寺川公園も近くにある。開設から8年の時を経て、少しずつ地域に馴染み近隣の方とつながりが持てるようになってきた。管理者は地域のグループホームとしての役割やグループホームの内容、認知症についてなどの周知に努めたいと運営推進会議等を通じて努力している。「あなたが楽しいと私が嬉しい」の法人理念を基に「家族のようなあたたかい家」の実現に向けて職員全員で協力しながら日々支援に努めている。不穏や徘徊、帰宅願望の強い方にも個々のニーズをくみ取り、様々な工夫を重ねながら個別できめ細かな忍耐強い支援に取り組んでいる。四季折々の催しや祭り、花見、外食を計画したり、ボランティアによる演奏会、銭太鼓や絵手紙、ちぎり絵教室、日々の体操やゲーム、歌など生活に彩りを添えながら楽しい家、あたたかい家の生活に向けた支援に職員一丸となって努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で話し合っ考えた「家族のようなあたたかい家」という理念を共有し、一人一人にあった具体的なケアを心掛け、寄り添うように努めている。玄関と、ユニット内にも掲げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も、地区の文化祭行事に入居者の作品を出品させてもらったほか、近所の飲食店や商店を外出先として利用したり、小学校の音楽会鑑賞への参加、保育園児との交流行事、地域の防災訓練やごみゼロ運動への参加、市民ボランティアの受け入れを行った。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内の夏祭りの説明会において、施設長が、認知症の方の対応について説明をしている。地域貢献の一環として、災害時に近所の方が避難してくる事を想定して、非常食などの備蓄品の量に余裕を持たせている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	規定に沿って定期的開催している。特に行事と内部研修の説明に力を入れている。地域連携の意味合いで、回覧板を回して頂くようになり、地域の行事を知ることや参加できるようになった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に運営推進会議の時に、制度上の事、届け出の事等を相談している他、入居者や待機者の情報交換も行っている。会議以外でも、疑問に思う事などがあれば連絡し、確認してもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議でも研修・事例検討を行い、理解を深め、ケアや見守り等を工夫し、拘束をしないよう努めている。言葉遣いにも気を配り、注意している。また、ユニット出入り口と玄関の施錠は最低限にするよう取り決めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の研修などもあり、意識している。職員間でも気が付いたら、注意しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係者と話し合うまではないが、職員会議の研修の場などで学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が一元的に行っている。締結・解約は直接説明しており、改訂等は文書で説明の上同意書をいただいている。職員が問い合わせを受けた場合は管理者に繋ぐようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は随時受け付けており、管理者が内容を集約し、職員への指示、運営に反映させるようにしている。気のあった方同士の席替えや、健康飲料の摂取、OTC薬を使用したい等の意向に対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は原則フロアで意見内容をまとめ、フロアリーダーを通じて報告を上げる。管理者は常時意見を受け付けており、内容を集約して施設長に報告、またはリーダーとケアマネとの運営会議にて話し合い、運営に役立っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告や、各職員の面談に基づいて把握し評価している。勤務時間帯や希望休については、極力各職員の希望を取り入れて調整を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、職員会議で1～2題の内部研修を実施して技術と知識の向上に努めています。前年度から認知症ケアの専門性を高めるべく、毎月研修を実施している。毎回研修受講シートの提出を義務付け、今後の目標を考えるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	必要に応じて他施設の行事や研修に参加できる体制を取っている。同業者の見学に対してもオープンに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	しっかり相手の顔を見て挨拶や声かけを意識的に行い、話を傾聴し、表情や声のトーン等にも配慮し、安心して頂けるよう話をするようしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの意向を事前に伺い、職員間で共有し、入居時や面会でみえた時などにお話を聞いています。また、面会等で見えた時に、日頃の様子などもお伝えしたりもしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報を共有し、職員間でニーズを検討し、ご家族にも具体的に細かく聞き取りを行い、サービスに活かせるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の盛り付けや食器洗い、洗濯など出来ることは一緒に行い、行って頂いたら、お礼を忘れないようにしている。入居者様の間でも声をかけ合っている様子も見られている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会やプラン作成時には、ご家族のニーズをお聞きしたり、好きだった事、懐かしいなどをお聞きしたりもしている。必要に応じてご家族に協力をお願いする事もある。また、日頃の様子も伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた時には、ゆっくり話が出来るように環境作りに努めている。時には、会話が途切れたりしないようにや思い出して頂けるようにといった意味で、声をかけさせて頂いたりしている。フロア間でも他入居者の方の話が出たら、会いに行けるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	声をかけて家事を一緒にして頂いたりしています。また、利用者同士で会話がないう時は、職員が間に入り、話しかけたり、歌を歌ったり、ゲーム等をしたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所として積極的に関わっていく事はない。本人・家族及び現在サービスを受けている事業所等の求めに応じて対応する。再入所や系列事業所の利用希望には特に配慮して支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から意向をうかがうようにしている。困難な方には日常の様子観察の中から本人の思いや意向を汲み取るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査の内容や資料を職員間で共有し、本人や家族からも直接お話をうかがうなどして、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察等を情報共有し、職員間で話し合い、変化に応じた対応方法を考え、現状や変更内容を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや担当者会議、フロア会議を利用して話し合えるようにしている。ご家族にも担当者が直接相談し、計画づくりをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、サービス計画に基づいた観察内容を記録し、いつもと違う変化があれば申し送りなどで共有し、プランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の状態、状況に応じたニーズに合わせて、可能な限り個別対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの場所として、天王川公園や津島神社等のほか、市立図書館、地域のスーパーに買い物に出かけたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は同意のもとで囑託医がかかりつけ医になり、定期的な訪問診療を行っている。希望に応じて以前からのかかりつけ医の診療を継続する事も可能である旨、入所前に説明している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問時に変化や状況を伝え、助言をもらい、医療機関へ繋いでいる。また、急変時やケガ等があった際や夜間等も対応して頂いている。訪問看護師へ伝える事をまとめる用紙を作成して、漏れのないように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーの提供や、必要に応じての情報交換を行っている。入所希望者の情報交換の兼ね合いもあり、津島市民病院の医療連携室とは連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の重要事項説明において、事業所の現在の体制と方針を説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員会議において対応について研修を行っている。また、今年度はAEDを設置したため、施設内で救急隊員による救急救命講習を実施し、全職員が対応できるよう備えた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、それぞれ昼と夜の想定で防災訓練を実施し、避難マニュアルを作成し、周知している。また、災害時は避難所で認知症の方々の対応に困るような場面で相談して欲しいと申し出ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その時の状況や、その方の性格も考慮して、話しかけ方などに配慮している。人生の先輩として敬意を払う気持ちで接し、丁寧な声かけも意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を伺ったり、選択できるような声かけをし、小さなことでも自己決定できるようにしている。出来る限り、希望に添えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課のペースはあるが、入居者様のペースを重視し、希望等をうかがったりして、希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる方は目田に楽しんでもらい、出来ない方には季節にあった服装を勧めたり、同じものばかりにならないように、一緒に選んだりしている。髪をとかしたり、髭をそったり、爪を切ったり等の整容にも気を付けて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、片付けは、職員とできる入居者が協力して毎日行っている。調理レクやおやつ作りなども定期的に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好や体調に合わせて種類や量、食形態やトロミつけなどの調整を行っている。水分摂取不足にならないように、摂取内容や時間、声掛けの仕方にも気を付けており、季節にあわせて摂取量を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人に合わせた援助をしている。義歯を外すなど嫌がられる事もあるが、時間を空けて何度も声かけし対応している。義歯のある方は、夕食後は預り、洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをつかんで誘導できるように取り組んでいる。誘導の声かけも小さな声で言うなど配慮している。介助が必要な方も、出来るだけ自分で出来るように接している。現在、おむつ使用の方はいない。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に排便状況を把握し、飲料や運動を勧めたり、摂取物を工夫し、予防に取り組んでいる。施設でも乳製品を全入居者様に提供するようにし、自己排便を促すようにしている。それでも改善しない時には、医師に相談し個々に合わせた薬を服用する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく希望に沿うよう対応しているが、基本の曜日や時間帯は決まっている。気持ちよく入浴できるように、声掛け誘導に配慮したり、入浴剤の使用、仲のよい人同士で入浴させることで楽しみを増やしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は自由に休息してもらい、夜間も照明や温度に気を付け、気持ちよく休めるようにしている。昼夜逆転してもいけないので、日中は出来るだけリビングで楽しく過ごして頂けるよう工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容の変更があった時などには、フロアの職員が分かるように申し送り、記録にも残している。また変更時には、特に様子の変化に気を付けて観察するようにしている。何かあれば、すぐに医師へ連絡するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や買い物に行ったりして気分転換をして頂いたり、その人の趣味や特技、好きそうな事を生かしたレクや作品づくり(絵手紙、ちぎり絵、季節に応じた壁画作り)、歌、脳トレ(間違い探しや計算問題、塗り絵)などを提供するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近所への買い物には対応できるように努めている。また、外食やドライブ等、ボランティアの方にも協力してもらい、対応している。時には、家族の方にも協力してもらい、気分転換に喫茶など外に連れ出して頂く事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所管理だが、買い物や週一回あるパン販売の時などで、可能な方には自分で財布を持って支払ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて対応している。携帯電話も持ち込み可で、現在1名使用されている。また、個別で届いた手紙や葉書には、職員の取り次ぎでお礼の電話を入れている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面などを利用して入居者様の作品や季節感のある作品を飾っている。席は、机の配置も含め、入居者様同士の相性を配慮して決めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席以外に自由に使えるソファや相性を考慮した席など配慮しており、独りが好きな方も、仲の良い方同士も、自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や家族との写真などを持って来ていただいている方もあります。物や衣料を自分で整理できない方は、その方にあつた配置を考え整理の援助を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動して頂くために、歩行器やシルバーカーを置く位置が分かるように床に目印を付ける等の対応をしている。		